

ニューズレター 経済教育学会

2014. MAY. No.21

第30回全国大会のご案内・・・1～3 拡大理事会議事録・・・4 拡大理事会資料・・・5～6
春季研究集会のご報告・・・7 経済教育 情報クリップ・・・8～9 会費納入のお願い・・・10

創立30周年記念の2014年度全国大会 京都で開催！

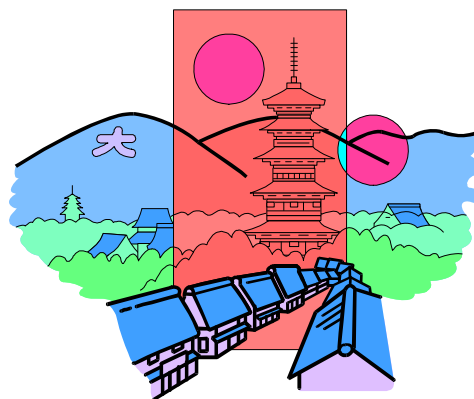
2014年9月20日（土）～21日（日）／会場：立命館大学

大会実行委員長 角田修一（立命館大学）

経済教育学会はその淵源をたどると、1981年9月札幌で開かれた「経済学教育をめぐる研究討論集会」に行きつきますが、直接には本学会の前身である経済学教育研究会創立時となります。この創立大会は、1985年11月3～4日、立命館大学衣笠キャンパスの末川記念会館で行われました。したがって、今年2014年は本学会創立30周年にあたります。

創立時の会員は、主として大学で経済学を教える教員を中心に構成されていましたが、今日では会員層は大きく広がっています。子どもからシニアまでの多様な学習者の経済への興味・関心に応え、学習者の間に経済良識（エコノミック・リテラシー）を育むにはどうしたらよいかといった経済教育の目標・内容・方法・制度を総合的に論じることができるようになりました。しかし他面、会員の問題関心の幅が広がることは、経済教育の土性骨ともいべき共通項—経済教育の目的と中核的な内容の鮮明化を要請することにもなっています。

本学会が30年の歩みを刻んだことを記念し、本年は、創立大会と同じ立命館大学衣笠キャンパスに立ち戻り、2014年9月20日（土）—21日（日）両日、第30回大会を開催します。30年の経過を振り返り、「未来を信じ、未来に生きる」（末川博）青年学生の根本的な欲求に応えるために「経済教育の目標と内容」をどのように定めたらよいかをみなさんとともに探求したいと思います。



第30回全国大会

全体テーマ：「未来を拓く経済教育——その目標と内容を求めて」

<日時>9月20日（土）午前10時 ～ 9月21日（日）午後4時

<会場>立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスホール

以学館3F 34～38番教室、清心館

プログラム(暫定)

第1日目(9月20日・土曜日)

- 10時～12時30分 分科会A A-1: 本学会の30年の歩みを振り返る 歴代の代表幹事、事務局長とともに
A-2 自由論題① A-3 自由論題②
- 12時30分～13時50分 休憩・昼食 (並行して理事会を開きます)
- 13時15分～13時50分 国際平和ミュージアム ガイド付きツアー
- 14時～17時 **シンポジウム1 社会の期待、学習者の要請にどう応えるか**
——経済教育の目標・内容を考える—— コーディネーター：藤岡 惇 (立命館大学)
①リアルな人間観と幸福感を手掛かりに、持続可能な経済社会をどう創造するか、
②社会の進路とともに学習者の進路も同時に拓く経済教育のあり方、
③東アジアの平和構築に資する経済教育、などについて考えます。
- 17時～18時 学会総会
- 18時10分～19時45分 懇親会 (末川記念会館地階レストラン「カルム」)

第2日目(9月21日・日曜日)

- 9時30分～12時 分科会B B-1 経済教育の国際的展開——東アジア・韓国の経済教育の歩みに学ぶ
K E E A代表団との交流 (英語 通訳付き)
B-2 自由論題③ B-3 自由論題④
- 12時～13時 昼食
- 13時～14時 **記念講演 未来を拓く経済教育の目標と内容**
ハインツ・クルツ (グラーツ大学経済学部教授)
- 14時10分～16時 **シンポジウム2: 学士課程における経済(学)教育の目標と内容**
—学生実態、社会的期待、学問的真実の視点から学術会議の参照基準問題を考える
「参照基準問題の経過と所見」八木紀一郎 (摂南大学)、
「参照基準問題を考える」岩田年浩 (京都経済短期大学)、司会: 橋本勝 (富山大学)

【会長代理就任の御挨拶】

富山大学 橋本 勝

2月25日(火)、私は某大学でのFD講演を務めるべく茨城に向かう途中、水野勝之会長と上野駅近くの喫茶店でお会いした。3月12日に迫っていた経済学分野の参照基準問題での学会としての報告を担当することになっていたの、そのことを中心にちょっとした打ち合わせをするつもりだった…。ところが、水野会長からは全く予想外の申し出を受けた。

「急遽、会長を辞任したいので、しばらく代わりを務めてもらえないか」という内容だった。聞けば、体調を崩し、本務も1年間休むことになった由、大月短大で重病をおして学会運営に御尽力された故長谷川義和氏の訃報に接してからあまり時間が経っていなかったことがとっさに頭をかすめた私は、とりあえず事務局として辞表を預かることにし、帰富後、事務局の3人の理事(大坂、新里、私)で対応を協議した。理由が理由だけに辞表を受理せざるを得ないという結論になり、9月の全国大会までは「事務局の誰か」が代理を務めるということになった。但し、大坂理事は事務局長、新里理事は会計担当ということで、余裕がなく、学会賞関連の仕事が一段落していた私に消去法でお鉢が回ってきたというわけである。ということで、数カ月の間、私が本学会の会長代理を務めることになり、三重大で開催された春季研究集会での理事会で正式承認される事態となった。

水野会長は、過去の歴代の会長や代表幹事と比較しても群を抜いて行動範囲が広く、そのアクティブな活動をそのまま継承することは代理職の私では到底かなわぬことは自明であるし、そもそも、経済(学)に余り詳しくない私がかたえ代理職であっても経済教育学会の代表を務めることは道義的に(?)問題があるのかもしれないが、ともかく成り行きでこのようなことになったので宜しくお願ひするしかない。

次期の会長を選ぶ際、「橋本でも代理が務まるのだから…」という安心材料を与えられるようなモデルにでもなれば…、と考えている。ある意味では、「あの橋本がFDの責任者？」と問題視されつつ日々の仕事をそれなりにこなしているのと同じノリである。会員諸氏の御指導・御鞭撻を心から切望する次第である。

第 30 回全国大会の自由論題報告を募集します

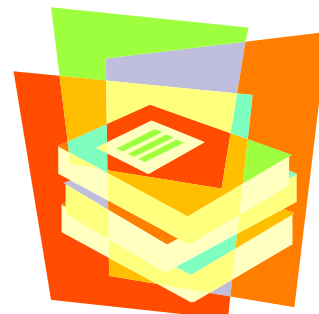
9月20日(土)の午前、9月21日(日)午前の時間帯に、自由論題の分科会を開きます。報告応募者は、下記の要領で手続きをお願いします。

1) 経済教育学会のホームページ <http://www.ecoedu.jp> から、報告者氏名・所属(複数の場合は全員)、連絡先(代表者のみ、郵便番号、住所、電話番号、ファックス番号、電子メールアドレス、携帯電話等の緊急連絡先)、報告論題、報告要旨(300字程度)を入力し、6月30日(月)までにお送り下さい。9月20日、21日午前の分科会とかかわり、報告不可能な時間帯がある場合は、お知らせください。

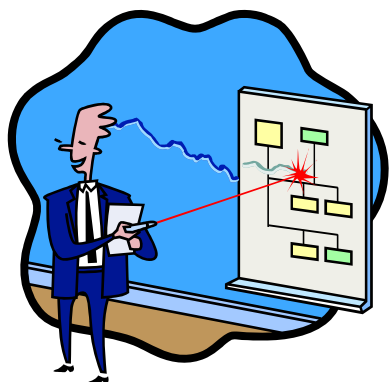
2) 報告の採否は、7月12日に開催される理事会で決定し、7月31日までに電子メールにてご連絡します。報告申し込みが多数にのぼる場合、次回の全国大会または春季研究集会でのご報告をお願いする場合があります。

3) 報告が採択された方には、報告要旨の原稿(40字×35行、2ページ以内)を作成し、電子メールの添付ファイルにて、8月20日(水)までに株式会社サラト 経済教育学会担当 E-Mail:office@ecoedu.jp までお送り下さい。これを素材に「報告要旨集」を作成します。原稿の書式は、経済教育学会のホームページよりダウンロードできます。2ページという分量には、図表など一切を含みますのでご注意ください。レイアウトに合わせて作成し、ページ番号、ヘッダー、フッター等はいれないで下さい。

4) 報告応募者は年会費を納入して下さい。新規入会される場合には、報告申込時に年会費5,000円(65歳以上のシニアの場合2,500円、学生・院生の場合2,000円)の納入をお願いします。



一般参加の皆様へ



1) 経済教育学会のホームページ <http://www.ecoedu.jp> から、参加者氏名・所属、連絡先(郵便番号、住所、電話番号、ファックス番号、電子メールアドレス)、懇親会の出席・欠席を入力し、2014年9月13日(土)までに送信してください。

2) 会員外の方も参加できます。ただし報告要旨集などの資料実費として、受付にて1000円をいただきます。本学会の魅力を体験された後、入会していただくことを期待します。

問い合わせ

第30回全国大会のお世話は、立命館大学経済学部が担当させていただきます。

この件に関しては、以下までお問い合わせ下さい。



連絡先: 〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1 立命館大学びわこ・くさつキャンパス

立命館大学経済学部 橋本貴彦研究室内 経済教育学会第30回全国大会実行委員会

<mailto:tht27008@fc.ritsumeai.ac.jp>

経済教育学会 2013 年度(拡大)理事会(2014 年 3 月 28 日)議事録

日時:2014 年 3 月 28 日(金)午後 4 時15分～5時50分

場所:三重大学・総合研究棟Ⅱ・1 階・メディアホール

出席理事:、井草、猪瀬、大坂、角田(修)、中里、中谷、橋本、藤岡、松本、宮原、山根(以上11名)、委任状(11 名)で理事会成立。尚、理事以外に5名の一般会員が出席。

審議事項

1. 会長代理の件

大坂事務局長より、水野会長が健康上の理由による会長職の継続困難な状況にある旨の報告があり、本人からの申し出の写しも資料として示された。それを受けて、橋本勝会員を議長および次期大会まで会長代理として選出した。

2. 第 30 回全国大会について

角田修一会員より第 30 回全国大会(立命館大学)についての実施案について報告があった。骨子として、①日時は 9 月 20 日-21 日、会場は立命館大の衣笠キャンパスとし、②2 日目(21 日)に第 2 の全体会あるいは特別分科会を設け、経済教育に関する国際交流という視点から、海外からの研究者の報告と学術会議参照基準の問題を取り上げる案が示された。また、藤岡会員より 1 日目(20 日)の全体会の内容(テーマ:経済教育の目標と使命)についての案が示された。議論の結果、2 日目についてはシンポジウムとして開催するという方向性は確認されたが、2つのシンポジウムと 2 日目の分科会の関連性を明確化すべきだという意見もあり、スケジューリングも含め、さらに実行委員会で案を練ることとなった。

3. 次回春季研究集会(福井県立大学)について

次回春季研究集会(福井県立大学)について中里会員より報告された。概要として、①2015 年 3 月 28 日(土)・29 日(日)、②会場を福井市地域交流プラザ、③北陸地域政策研究フォーラムと共催とすること、29 日の拡大理事会は 1 日目の宿泊ホテルを会場とする提案がなされ、了承された。

4. 参照基準問題について

橋本会長代理より資料に基づき、『参照基準』問題の経緯と本学会としての対応及び第二次修正案についての意見書について説明が行われ、理事会として学術会議分科会委員長宛に一部字句修正した意見書を再提出されることが了承された。尚、拡大理事会鬱積者には学術会議から示されている第二次修正案が資料として配布され、個人的意見も提出可能なのでその意志のある人は 3 月 31 日までに対応するよう指示があった。

5. 経済理論学会、進化経済学会等との共同出版事業について

大坂事務局長より表記提案の経緯と内容について説明され、今後内容の具体化について検討を進めることが了承された。

6. 学会誌編集委員の交代について

高橋委員が事情により編集委員を辞退されること(理事は継続)が報告され、委員の補充を進めることが了承された。

報告事項

下記報告事項については簡単な口頭説明と配布資料の確認のみが行われた。

- ①会費の納入状況
- ②会員の異動
- ③2013 年度決算、2014 年度予算の審議予定
- ④学会賞決算報告
- ⑤編集経費決算報告

以上

2012年度(自2012年4月1日至2013年3月31日)決算

収入				支出			
項目	決算額	予算額	執行状況		決算額	予算額	執行状況
前年度繰越金	1,422,048	1,422,048	100.0%	学会誌印刷費	554,923	700,000	79.3%
会費	1,437,500	1,500,000	95.8%	学会誌管理委託費	36,550	40,000	91.4%
学会誌売上	42,800	100,000	42.8%	学会誌編集経費	40,000	30,000	133.3%
学会誌投稿料	45,000	40,000	112.5%	全国大会補助費	250,000	250,000	100.0%
印税	1,875	0		ニューズレター印刷費	139,440	150,000	93.0%
預金利子	116	300	38.7%	春季研究会経費	33,350	0	
雑収入	0	0		理事選挙関係費	29,930	75,000	39.9%
その他				学会賞関係費	0	50,000	0.0%
編集委員返金	8,580			事務局費	23,467	150,000	15.6%
大会実行委員会返金	9,888			学会事務委託費	386,090	378,000	102.1%
合計	2,967,807	3,062,348	96.9%	(小計)	1,493,750	1,823,000	81.9%
				次年度繰越金	1,474,057	1,239,348	118.9%
				合計	2,967,807	3,062,348	96.9%

2013年度(自2013年4月1日至2014年3月31日) 予算

収入						支出					
項目	予算	2012年度予算	2012年度決算	予算比	決算比	項目	予算	2012年度予算	2012年度決算	予算比	決算比
前年度繰越金	1,484,057	1,422,048	1,422,048	62,009	62,009	学会誌印刷費	600,000	700,000	554,923	-100,000	45,077
会費	1,400,000	1,500,000	1,437,500	-100,000	-37,500	学会誌管理委託費	40,000	40,000	36,550	0	3,450
学会誌売上	43,000	100,000	42,800	-57,000	200	学会誌編集経費	30,000	30,000	40,000	0	-10,000
学会誌投稿料	40,000	40,000	45,000	0	-5,000	全国大会補助費	250,000	250,000	250,000	0	0
印税	0	0	1,875	0	-1,875	ニューズレター印刷費	150,000	150,000	139,440	0	10,560
預金利子	0	300	116	-300	-116	春季研究会経費	40,000	0	33,350	40,000	6,650
雑収入	0	0	0	0	0	理事選挙関係費	0	75,000	29,930	-75,000	-29,930
その他				0	0	学会賞関係費	50,000	50,000	0	0	50,000
編集委員返金	0		8,580	0	-8,580	事務局費	50,000	150,000	23,467	-100,000	26,533
大会実行委員会返金	0		9,888	0	-9,888	学会事務委託費	540,000	378,000	386,090	162,000	153,910
合計	2,967,057	3,062,348	2,967,807	-95,291	-750	(小計)	1,750,000	1,823,000	1,493,750	-73,000	256,250
						次年度繰越金	1,217,057	1,239,348	1,474,057	-22,291	-257,000
						合計	2,967,057	3,062,348	2,967,807	-95,291	-750

拡大理事会議事録補足資料

会員の現況

会員種別	20140222	20130401
学生会員	20	16
正会員	314	321
特別会員	19	20
合計	353	357

注)2013年年始データは2014年4月入会者(3名)を含む。また、2013年度末退会者は含まない。データは3月末の引き継ぎデータ(さかのぼっての退会者は含まず)

2013年4月データは年度末理事会承認の2名を含む。

会費納入状況(2月22日現在)

	2013年度	2012年度	2011年度	2010年度	2009年度	2008年度	2007年度
未納者	139	98	75	56	42	26	21
納入者	214	236	245	242	229	235	228
未納率	39.38%	27.76%	21.25%	15.86%	11.90%	7.37%	5.95%

注)現会員数の在籍状況

2013年度	2012年度	2011年度	2010年度	2009年度	2008年度	2007年度
353	334	320	298	271	261	249

退会者一欄(2013年度末)

正会員 浅利一郎
 正会員 梅垣邦胤
 正会員 熊岡洋一
 正会員 伍賀一道
 特別会員 齋藤清
 正会員 住吉広行
 正会員 松丸和夫
 学生会員 村井望

以上8名

昨年末は19名(年度をさかのぼっての退会者含む)

さかのぼって退会

2012年度末
 正会員 高野邦彦
 正会員 Robert Gee
 正会員 川瀬光義
 正会員 宮川彰
 特別会員 一井昭
 正会員 堤一直
 正会員 広野達
 特別会員 森義隆

2011年度末

正会員 柳沢遊
 正会員 佐藤純
 正会員 後藤隆行
 正会員 藤田佳正

以上12名(計20名)

新入会者(2013年10月以降)

正会員 後藤達也 大阪産業大学経済学部
 正会員 本田親啓 鹿児島県立川薩清修館高校
 学生会員 大富友貴 三重大学大学院教育学研究科
 正会員 大塚雅之 大阪府立泉鳥取高校
 正会員 鄭年皓 明治大学商学部
 学生会員 鳥飼慎介 尾道市立大学
 正会員 小川正人 環太平洋大学
 学生会員 権善喜 明治大学大学院
 正会員 佐藤健司 京都経済短期大学

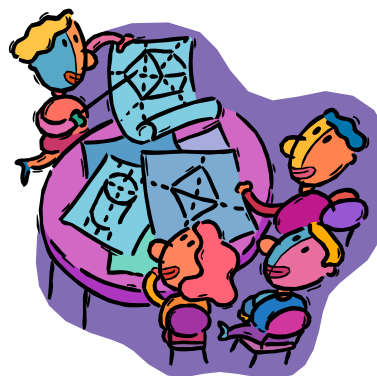
以上9名

2013年度で16名(+4月1日加入3名=19名)

春季研究集会のご報告

去る 2014 年 3 月 28 日（金）、三重大学・総合研究棟 II・一階メディアホールにおいて経済教育学会の春季研究集会・拡大理事会が開催されました。実行委員長は山根栄次会員（三重大学）。参加者 43 名。

パネルディスカッション「日本の財政と税について生徒・学生にどのように学ばせるか」は、教育における税と財政の教育という普遍的な問題であると同時に、消費税 3%アップ 3 日前の緊張感をもった議論の場となりました。



パネリストは猪瀬武則会員（日本体育大学）、河原和之会員（元東大阪市中学校教諭，立命館大学講師）、佐野岳仁氏（津税務署税務広報広聴官）、松尾匡会員（立命館大学）、宮原悟会員（名古屋女子大学）、コーディネーターは山根栄次会員でした。

猪瀬会員、宮原会員の報告は研究集会実行委員長でもある山根栄次会員が代表者となった科研費研究課題「国の累積債務 1000 兆円時代における税教育理論の構築とカリキュラム開発」をふまえたものでした。

それに加え、実務家として税の現状の詳しい佐野氏、中学の教育現場からの立場からの河原会員、インプレターゲッティング政策の著名な啓蒙家である松尾会員と、多彩な立場からの報告があり、引き続きフロアからの意見、質問も交えた活発な討論へと続きました。

これにさきだって、パネルディスカッションにそったテーマとして募集された以下の 3 件の研究報告がなされました。升野伸子会員（筑波大学附属中学校）の「公共財供給ゲームを通して税の意義を考えさせる授業実践報告」、金子 浩一会員（宮城大学）の「義務教育課程における財政・金融政策の理解—小・中学校の教科書から検討する教授上の注意点—」、炭谷 英一（神戸市消費生活マスター）会員の「ポストリフレ時代の〈税〉の「制度設計と選択」を学ぶ—行動経済学の視座から—」。

全体として、財政と税の教育において、税と財政をとらえる枠組みの重要性を実感しました。その教育的意義とともに、累積債務 1000 兆円と失われた 30 年が併存するなかでの今回の消費税アップの意義と問題点を考える場になりました。

拡大理事会では、通常の議題の他に、参照基準問題へのこの間の学会としての対応、提出される意見書等についての報告・審議がなされました。



経済教育 情報クリップ 新刊情報①

●企業と利益がわかる：経営学入門オムニバス講義

京都経済短期大学 岩田年浩・佐藤健司・藤原隆信 著、
ミネルヴァ書房刊、¥ 1500 (税別)

京都経済短期大学は、経営情報学科を擁し、経済・経営・会計・情報の4分野を専門とする教員が在籍している。オムニバス講義は、2013年度の新規科目(「経営情報学科特講」)として、4月から7月にかけて1年生を対象に開講されたものである。

オムニバス講義を実施するねらいは、一つのテーマのもとで、各専門分野の教員が講義を行うことによって、その共通する水脈を学生が把握し、短期大学で勉強する内容の全体像を理解することにある。また、この講義は、地域住民や教育関係者といった学外の人々も聴講可能な公開講義とした。これは、実際に短期大学で実施されている講義の内容を、広く知ってもらうことによって、「社会的公器」としての大学の使命を果たす目的で実施されたものである。それと同時に、講義内容を公開することによって、教員への刺激を喚起し、教育の質的向上を図る意義も大きい。(岩田年浩)



●カタストロフィーの経済思想—震災・原発・フクシマ

後藤宣代、森岡孝二、池田清、中谷武雄、広原盛明 著、
昭和堂、¥ 2800 (税別)

東日本大震災とそれに続く原発事故についての論文集である。ここでは学会員である森岡孝二氏、中谷武雄氏、藤岡淳氏の論文をとりあげる。森岡氏は原発推進の政治経済的な背景を明かす。藤岡氏は、9.11とフクシマの経験が通常兵器による原発設備の攻撃の威力をあらさまにすることで核抑止を破綻に向わしているという。両氏は、現状の政治・経済システムの超克を訴える。森岡氏は従来型の経済成長指向を反省し、新しい豊さを指向する必要を、藤岡氏は憲法9条の精神にもとづいた東アジアレベルでの戦争放棄を提唱する。

これらのシステム改革はいかにして可能だろうか。そのためには民主主義の従来とは違うありかたが必要とされる。中谷氏の論文はそれを模索する試みである。中谷氏はWeb2.0の時代という背景もあいまって、3.11後の状況が現状の専門知の再検討をせまるものであること指摘し、集団知という知識のありかたに注目する。その上で、伝統的な経済学の中にある集団知的な潮流をアダム・スミスとケインズの中に見ていく。(大坂洋)

●「本音」でつながる学級づくり 集団づくりの鉄則

河原和之 著、明治図書刊、¥ 1560 (税別)

本書には、著者が本当にかかわった、荒れている生徒、さまざまな理由による不登校の生徒、支援の必要な生徒…などいろいろな子どもが登場する。どのように「本音」でかかわっていったのか。そして、そうした子どもたちやクラスの生徒が、どのように成長していったのか。「本物」の成長記録は、現場の教師だけでなく、親はもちろん、子どもとかかわるいろいろな人にとっても参考になるだろう。どの子ども、よりよく成長しようとする力をもっているのだと励まされる。本書は、実用的な教師の教本であるだけでなく、涙なくして読めないドキュメンタリーでもある。

また、こうした体験から得られた、「学級づくり」「集団づくり」の鉄則も丁寧に解説。本来なら、職員室で年配の先生から若手に伝えられていったであろう“秘伝”にあやかることができる。団塊の世代の退職に伴い懸念される、若手へのこうしたノウハウの伝授も本書は担っている。(あんびるえつこ)



●キャリアデザイン入門テキスト—人生設計のためのパワースポット 55 選

中畠 剛 著、学事出版、¥1200 (税別)

自覚的なキャリア形成を支援するための教材である。見開き 1 ページで、1 テーマになっており、その中で、ワーク、背景にあるキャリア理論の紹介、自己理解を深めるポイント、さらには教訓や発展学習のための参考書までが紹介されていて、とてもわかりやすい。どこからでも、一時限の授業でも、ピックアップして取り組める手軽さがある。

また、本書を 1 冊取り組めば、自分発見の旅をしているような気分を体験できる。本書のサブタイトルが「人生設計のためのパワースポット」となっている通り、過去を振り返る巡礼編、現在を見つめ直す気入編、将来へ一歩踏み出す旅路編で構成されているのもおもしろい。

いつでも、どこでも、だれでも<自己を客観視する力>を学びとれる本書は、大学に入学したらすぐに学生に手渡したい、格好の入門書である。(あんびるえつこ)



●高校生からわかるマクロ・ミクロ経済学

菅原晃 著、河出書房新社、¥1500 (税別)

2013 年9月に、北海道江別高等学校 公民科教諭 菅原晃会員が出版した『高校生からわかるマクロ・ミクロ経済学』(河出書房新社)が高い評価を得ている。「週刊東洋経済」(2013.11.23 号)には、「経済学の入門書は数々あるが、現在のトピックスを理解するうえで勘所を押さえ、かつきちんとした学術水準を維持しているものは、それほど多くない。たとえば、貿易赤字を、家計赤字や企業赤字と同じ扱いで論じる全国紙や有力 TV 局が後を絶たないがそれについては、貿易赤字は資本収支黒字と表裏の関係にあり、その「外国との資金の貸し借り」のある期間の結果を、赤字は悪く、黒字はいいかのように論述できるわけではない、と一喝。…GDP の三面等価、リカードの比較優位論、IS

—LM 分析といった基礎の基礎をベースに、どう考えるべきかを明快に教える」と紹介された。公立中学で長年にわたって教鞭をとっていた著者の力作だ。(水野勝之、あんびるえつこ)



●毒になるお金 幸せになるお金 ~ママと子どものお金レッスン 35~

あんびるえつこ 著、プラス出版刊、¥1200 (税別)

本書の特色は、押し付けではなく、子どもが自ら価値観を獲得できるよう、ゲームやワークショップを通じて考えさせる工夫が多く紹介されていることである。「お金で買えるもの、買えないもの」から「買えないもの」をあげさせるが「人間」「命」「自然」「時間」をも「買える」ことから、社会の背景にせまることをはじめ、「捨てる・・・から見える世界の不公平」などである。また、「万引き」などの反社会的行動についても、「かわいそうなおばあさんのはなし」という創作物語から、万引きにより生活費や仕入れなど、どんな影響があるかを明らかにしつつ、その問題を考えさせる構成になっている。

そしてお金について考え、生き方を揺さぶるレッスンが数多く紹介されている。私は、「“ないこと”喜びゲーム」に興味をもった。「子ども部屋」がないことによるプラス面を考えさせ、逆転の発想から、何が大切であるかを考えさせている。学校現場はまだまだ「お金」の教育については違和感がある。本書はその壁を取り払い、お金を通じて生き方を考えさせる好書である。(河原和之)



会費納入のお願い

2014 年度の年会費を請求いたします。すでに 2014 年度分入金の方は振込み用紙が同封されておりません。下記の振替口座での振込みも可能です。

ゆうちょ銀行 口座番号：00920-3-252875 口座名義：経済教育学会

年会費：正会員 5,000 円、学生会員（大学院生を含む）2,000 円、65 歳以上の会員 2,500 円

・経済教育学会は日本学術会議協力学術研究団体（詳細は <http://www.scj.go.jp/ja/group/dantai/index.html>）です。学会費は所属先の校費にてお支払い頂ける場合があります。なお、ニューズレター本号の送付より、以下規約通りの運営を行ないます。つきましては過去の会費の未納分がある方は早急に会費を納入願います。「5 年以上にわたり会費を納めないものは、原則として会員の資格を失う。3 年以上の滞納会員については、その旨を伝えて、本会の出版物の配布を保留することとする。（会則 5 より）」

<メールアドレス登録のお願い>

事務局では、学会運営と情報共有の円滑化のため、学会事務局へのメールアドレスの登録をお願いしております。登録されておられない方は学会事務局のメールアドレス office@ecoedu.jp に御知らせ願います。以下の QR コードより、携帯メールから登録可能です。

学会にメールアドレスを登録すると、大会、研究集会等の情報、学会ホームページの更新情報などを掲載したメールマガジンが登録にアドレスに届きます。



<編集後記>

今回のニューズレターでは、第 30 回の全国大会の告知を掲載させていただきました。30 年前と言うと一年齢がばれてしましますが一私は高校生でした。1 万円(福澤諭吉)・5 千円(新渡戸稲造)・千円(夏目漱石)の新札が発行され、日本が世界一の長寿国になった年でもあります。人気職業を金持ちタイプと貧乏タイプに分類した「まる金」「まるビ」などという言葉が流行ったのもこのころでした。

あれから 30 年。青春を謳歌していたような経済状態から、バブルの崩壊を経験し、阪神淡路大震災、東日本大震災…と、日本という国もさながら人生のごとく、苦難を味わいました。そして、第 30 回全国大会のテーマは「未来を拓く経済教育」。どのような未来を見据えて「経済教育」が発展していくのでしょうか。

(あんびるえつこ)

経済教育学会 ニューズレター 第 21 号

2014 年 5 月 20 日発行

発行人 経済教育学会 会長代理 橋本勝

編集人 あんびるえつこ 松本朗

発行所 〒930-8555

富山県富山市五福 3 1 9 0 富山大学経済学部
大坂洋研究室

発送元 株式会社サラト経済教育学会担当

〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町 172

FAX: 079-224-7746

電子メール office@ecoedu.jp

学会費送金先 ゆうちょ銀行 振替口座番号 00920-3-252875

印刷所 株式会社 エムディーエス

Tel : 03-5261-9021

<http://www.mds-pro.com>